
やわらかな陽

ひなた水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やわらかな陽

【Nコード】

N9693D

【作者名】

ひなた水

【あらすじ】

離婚して少し心が不安定なフミちゃんと、幼馴染の七生君のちょっとした不思議な心の交流

「いい天気だなあ」

ベランダから臨む空は眩しいくらいに青く澄んで、そして陽射しがやわらかい。ヨイシヨと布団を手すりに掛けてパンパンと叩く。

天気の良い日曜の朝は布団干しから…そう決めている。それから洗濯、そして掃除、ちよつと遅めの朝ごはん。

風も無い、気温もこの時期にしてはちょい高め、食事が済んだらどこかへ出掛けてみようか。ドライフルーツが練りこんである食パンをカリカリに焼いて、ミルクココアを啜る。

傍らの携帯から、七生にメールを打つ。

「ヤホオ！良い天気だよ。これから海にでも行かない？江ノ島あたり」

五分もしないうちに返事が来た。

「驚いた！フミちゃんから、そんな元気なメールが来るなんて。いいよ、迎えに行くよ。何時がいいかな？」

「今から三十分後」

「オーケー」

今日の予定が決まった。私は急いで支度をして三十分後には、七生の車の助手席に座っていた。七生は幼馴染の同級生で、今は高校の生物の教師をしている。

「フミちゃん、最近元気になったね」

「うん、なんか気持ち上向きアクティブになってる気がする」

外の陽射しを受けて、車内はポカポカと暖かい。モフモフのコートを脱ぐと、ピンクのセーターが現れる。

首都高は思っていた程混んでない。幸先がいい。

「この分だと、昼前に着く？」

「そうだな。まあ季節はずれだし」

「七生はどうなの？」

「何が？」

「だってメールの返事すぐ来た。日曜なのに、家に居るなんて……」

「ハハハ、ほつといて下さいね。フミちゃん」

私は七生の少し高すぎる鼻を持つ横顔を見た。子供の頃から顔見知りのご近所さん、私から見ると結構良い男なのに、不思議に独り者の七生……

「フミちゃん、今は何の薬飲んでる？」

「えっレキソタン」

「うーん最高のチョイスだね。効いてるんじゃない？」

「……みたい」

目の前に青い海が見えてきた。心が深呼吸した。

二年前に離婚した私は、心が不安定になって病院で薬を貰っている。カウンセリングも受けている。今飲んでいるレキソタンは抗不安薬、ネットで見ると、安全で効き目抜群、最強の抗不安薬と書いてあった。

「海だよ、七生」

「オー泳いでみるか？」

「莫迦、2月だよ」

「今のフミちゃんなら、やっちまいそうだな」

「うん……何でも出来そう」

駐車場に車を止めて、海岸沿いをゆっくり歩く。潮の匂いが鼻をクスグル。不思議なくらい気持ちが静かだった。

「カウンセリングの先生がね、ゆっくり元気になればいいんですよ。だから私、ゆっくりしてたら、おばあさんになってしまってますって言ったの。そしたら先生が、いいじゃないですか。おばあさんになってから、のんびり生きていければ……」

それで私、こんな感じで生きていこうと。こんな風にゆっくり、

ふんわりと、私ワールドを生きていきたいと、今は思っているの」
私は隣の七生の手を握った。七生も優しく握り返してくれた。

「そっか」

「薬とか、先生とか、七生とか、色々な人や物の力を遠慮なく借りて、生きていこうと思って…」

私は七生の顔を覗きこんだ。彼は真面目な顔をした。

「いいよ、フミちゃん借りてくれよ。俺の力でも何でもさ、フミちゃん元気になるなら」

「うん、ありがとう」

ザザザーと静かに寄せては返す波の音を聞きながら、七生は子供の頃、そうしてくれたように、私の頭をクシヤリと撫でた。

それから、おまけのように私の頬にそっと唇を寄せた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9693d/>

やわらかな陽

2010年10月17日10時02分発行